

神経芽細胞腫の予後と DNA メチル化異常に関する研究

1. 研究の対象

当センター中央病院において診療を行う神経芽細胞腫の患者さんの検体と臨床情報、日本小児がん研究グループ神経芽腫委員会（JCCG-JNBSG）が臨床試験を行う際に登録された患者さんの検体と臨床情報、埼玉県立がんセンターと全国各施設との共同研究により埼玉県立がんセンターに集められた患者さんの検体と臨床情報を対象とします。

2. 研究目的・方法

2012年5月1日～2025年3月31日 [研究実施期間：13年間]

神経芽細胞腫は、神経を作るもとの組織から発生したと考えられており、体のいろいろな部位に発生しますが、現時点では原因はよく分かっていません。また神経芽細胞腫の中には、悪性の強いタイプと、予後良好なタイプがあることが分かっています。最近、多数の DNA メチル化変化がある神経芽細胞腫症例は、そうではない症例に比べて予後がよくないことがわかってきました。この DNA メチル化変化を用いると、現在臨床で使われている *MYCN* 遺伝子の増幅よりも、更に高精度に予後の診断ができる可能性が高いと考えています。

本研究の目的は、新たに診断された神経芽細胞腫の DNA メチル化変化を調べて、一定期間後に予後との関係を調べることにより、臨床検査としての実用化を図ることです。本研究によって従来より正確な予後診断が可能となれば、治療法の選択に役立つ可能性があると考えられます。また、DNA メチル化変化の調べ方について、再現性に優れ、実用化が可能と考えられる診断技術を開発します。

本研究の方法は、検体から DNA を抽出し、既に予後に関連することが知られる遺伝子の DNA メチル化の変化について調べます。そして、この DNA メチル化変化と予後との関係を調べ、関係がある場合には、どれだけ強い関係があるかについて調べます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究では、新たに診断された神経芽細胞腫から、(1) 検査や手術で切除した病気の部分の組織の残りなどの診療後の残りの検体、(2) 病理診断や治療内容などの病気に関する臨床情報、の2点を提供して頂き、研究を行います。

4. 外部への試料・情報の提供

本研究で用いる検体では個人情報や匿名化され、個人情報が特定されることはありません。具体的には、当センターの患者さんについては、バイオバンクにて連結可能な匿名化を行います。JCCG-JNBSG、埼玉県立がんセンターと全国各施設との共同研究による患者さ

んについては、JCCG-JNBSGの臨床試験参加施設と共同研究施設において連結可能な匿名化を行います。当センターには匿名化番号と検体由来DNAのみが送付され、個人情報扱いません。当センターから合同会社みらか中央研究所との共同研究のために、株式会社エスアールエルに検体由来DNAを供与する場合は、JCCG-JNBSG匿名化症例番号とは異なる新たな番号を付与し、対応表は提供しません。よって、個人が特定されるような情報は一切公表しません。

5. 研究組織

国立がん研究センター研究所	牛島俊和
国立がん研究センター研究所	服部奈緒子
国立がん研究センター研究所	竹島秀幸
国立がん研究センター中央病院	小川千登世
埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所	上條岳彦
埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所	大平美紀
合同会社みらか中央研究所	東本浩子

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者・研究代表者

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立研究開発法人国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門 服部奈緒子

TEL 03-3542-2511 (内線 3465)/FAX 03-5565-1753